

●発表日:平成27年(2015年)8月31日

## 田原市博物館秋の企画展

### 「写楽と豊国～役者絵と美人画の流れ」を開催します

江戸時代、歌舞伎は老若男女にとって最大の娯楽でした。芝居の演目や役者への関心にはじまり、人気役者の私生活や持ち物、その一挙手一投足にまで人々の注目が集まりました。役者たちや芝居の様子を描いた浮世絵は、歌舞伎芝居の余韻を楽しみ、鬘頭の役者を身近において眺めるブロマイドであり、美人画にならぶ主要なジャンルとして初期から幕末まで描かれました。

なかでも寛政6年(1794)は、新進気鋭の絵師 歌川豊国(1769～1825)をはじめ彗星のごとく現れた東洲斎写楽(生没年不詳)が活躍し、その時期衰退気味であった役者絵の刊行量はこの二人に牽引されるように増加します。この役者絵の転換期に現れた写楽と豊国ですが、写楽が短期間で姿を消したことは対照的に、豊国は浮世絵界で最大の流派となる歌川派を拡大し、その後の浮世絵界をリードする存在となります。つづく文化文政期(1804～1829)には、芝居ブームを背景にした数多くの役者絵と、芝居から派生した新しい感覚の美人画が生み出され歌川派の絵師たちが筆をふるいました。

本展では、写楽と豊国を軸にした寛政期の浮世絵を出発点として、幕末にいたる歌川派の役者絵と美人画の流れを展示いたします。江戸の人々を夢中にさせた人気役者や力自慢の力士たち、寛政三美人と謳われた評判娘といった人気者を通して、江戸の賑わいをお楽しみください。

- 1 会 期 平成27年9月5日(土)～12月6日(日)  
休館日 毎月曜日。ただし、9月21日・10月12日・11月23日は開館し、9月24日(木)・10月13日(火)・11月24日(火)は休館します。
- 2 開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 3 会 場 田原市博物館
- 4 観覧料 一般500円(400円) ( )内は20名以上の団体割引料金です。  
小・中学生は無料、毎週土曜日は高校生無料。  
9月5日(土)・10月11日(日)は無料公開します。
- 5 主 催 田原市博物館・公益財団法人崋山会・中日新聞社

(裏面へ)

6 期間中の催し物

田原城跡・月見会

9月27日(日) 午後6時30分～ 詩舞剣舞・投句・茶席 100円

講演会

10月11日(日) 午後1時30分 演題「写楽のミステリーの時代」

華山会館鶴の間 入場無料 講師 国際浮世絵学会常任理事・本展監修 中右瑛氏

展示解説

9月5日(土)・10月18日(日)11月15日(日)いずれも午前11時 当館副館長 観覧料が必要

特別展示室にて同時開催

9月5日(土)～10月18日(日)渡辺崋山・椿椿山の人物画、10月21日(水)～12月6日(日)愛知県美術館サテライト展示 20世紀日本の素描と版画～人物表現を中心に

※別添のちらしをご覧ください。

(担当) 文化生涯学習課 (田原市博物館) 主幹 鈴木 電話 (0531) 22-1720



田原市博物館◎平成27年◎秋の企画展

Sharaku and Toyokuni

# 写楽と豊国

## 役者絵と美人画の流れ

2015年

9月5日(土) - 12月6日(日)

開館時間◎午前9時 - 午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日◎毎週月曜日

\*ただし、9月21日・10月12日・11月23日は開館し、9月24日・10月13日・11月24日に休館します。

\*会期中、展示替えを行います。前期10月18日(日)まで、後期10月20日(火)から

観覧料◎一般500円(400円)、小・中学生無料

\*9月5日(土)・10月11日(日)は無料公開。\*( )は20名以上の団体割引料金。\*毎週土曜日は高校生も無料。

\*使用済企画展チケットをご持参くだされば、会期中2回目以降300円で入場できます。\*重複での割引はできません。

\*吉胡貝塚資料館(シエルマヨシ)との共通券もあります。

主催◎田原市博物館・公益財団法人華山会・中日新聞社

後援◎愛知県教育委員会



東洲斎写楽  
《大童山土俵入り 大童山文五郎》



大江戸の人気者

歌川国久《雪の大川端を急ぐ芸者》

田原市博物館

〒441-3421 愛知県田原市田原町巴江11-1

TEL 0531-22-1720

<http://www.taharamuseum.gr.jp>

東洲斎写楽《嵐龍威の金貨石部金吉》



# 写楽と豊国

## Sharaku and Toyokuni ~役者絵と美人画の流れ

江戸時代、歌舞伎は老若男女にとつて最大の娯楽であった。芝居の演目や役者への関心には、まり、人気役者の私生活や持ち物、その一挙手一投足にまで人々の注目が集まりました。役者たちや芝居の様子を描いた浮世絵は、歌舞伎芝居の余韻を楽しみ、眞風の役者を身近において眺めるブローマイドであり、美人画にならぶ主要なジャンルとして初期から幕末まで描かれました。

なかでも寛政6年(1794)は、新進気鋭の絵師歌川豊国(1769~1825)をはじめ、慧星のごとく現れた東洲斎写楽(生没年不詳)が活躍し、その時期衰退気味であった役者絵の刊行量は、この二人に牽引されるように増加します。この役者絵の転換期に現れた写楽と豊国ですが、写楽が短期間で姿を消したことは対照的に、豊国は浮世絵界で最大の流派となる歌川派を拡大し、その後の浮世絵界をリードする存在となります。つづく文化文政期(1804~1829)には、芝居ブームを背景にした数多くの役者絵と、芝居から派生した新しい感覚の美人画が生み出され、歌川派の絵師たちが筆をふるいました。

本展では、写楽と豊国を軸にした寛政期の浮世絵を出発点として、幕末にいたる歌川派の役者絵と美人画の流れを展示いたします。江戸の人々を夢中にさせた人気役者や力自慢の力士たち、寛政三美人と謳われた評判娘といった人気者を通して、江戸の賑わいをお楽しみください。



東洲斎写楽  
《三世沢村宗十郎の大岸藏人》



東洲斎写楽  
《三世市川八百蔵の田辺文蔵》



東洲斎写楽《中山富三郎の宮城野》



歌舞伎堂艶鏡《三世市川八百蔵》



歌川豊国《三世沢村宗十郎の大星由良之助》



歌川豊国《五大力艶姿》



歌川広重《岡場所の女》



歌川豊国《今やう娘七小町・清水小まち》



歌川豊国《大井川渡の図》



喜多川歌麿《山姥と金太郎》

講演会◎10月11日(日) 午後1時30分～ 崙山会館 入場無料

演題:「写楽のミステリー時代」

講師:国際浮世絵学会常任理事・本展監修 中右瑛氏

展示解説◎9月5日(土)・10月18日(日)・11月15日(日) いずれも午前11時～

講師:田原市博物館学芸員 ※要観覧料

田原城跡・月見会◎9月27日(日) 午後6時30分～ 投句・詩舞劍舞・茶席100円

展示内容◎出品作家=東洲斎写楽、歌舞伎堂艶鏡、勝川春艶、勝川春英、鳥居清長、喜多川歌麿、歌川豊春、歌川豊国、歌川国政、歌川国貞、歌川国芳(ほか) 40人以上の絵師  
出品点数=テーマⅠ写楽の役者絵8点、テーマⅡ写楽周辺の絵師19点、テーマⅢお江戸の人気力士たち14点、テーマⅣミスお江戸21点、テーマⅤ豊国の系譜 美人画31点、テーマⅥ役者絵37点、テーマⅦ肉筆画10点、計140点を前後期で展示



田原市博物館

〒441-3421 愛知県田原市田原町巴江11-1  
TEL 0531-22-1720  
http://www.taharamuseum.gr.jp

同時開催

●9月5日(土)～10月18日(日)  
渡辺崋山・椿椿山の  
人物画  
特別展示室

●10月21日(水)～12月6日(日)  
愛知県美術館サテライト展示  
20世紀 日本の素描と版画 ～人物表現を中心に～  
特別展示室